

2022年1月9日（日）「出発点」

箴言 1:1-7

- 1 イスラエルの王、ダビデの子ソロモンの箴言。
- 2 これは知恵と諭しを知り、分別ある言葉を見極めるため。
- 3 見識ある諭しと、正義と公正と公平を受け入れるため。
- 4 思慮なき者に熟慮を、若者に知識と慎みを与えるため。
- 5 知恵ある人は聞いて判断力を増し、分別ある人は導きを得る。
- 6 箴言と風刺を、知恵ある言葉と惑わす言葉を見極めるため。
- 7 主を畏れることは知識の初め。無知な者は知恵も諭しも侮る。

【序論】

成人とは「心身ともに成長して、一人前になること」というのが、国語辞典に書かれている定義です。日本では20歳がその年齢として定められていますが（2022年4月1日から18歳に変わる）、成人年齢というのは国によってやや異なります。

- ・ 21歳：アルゼンチン、エジプト、シンガポール等
- ・ 18歳：イギリス、イタリア、オーストラリア、スイス、中国、ドイツ、トルコ、ブラジル、フランス、ベルギー、メキシコ、ロシア等
- ・ 16歳：キルギスタン
- ・ 14歳：プエルトリコ
- ・ 州ごと：アメリカ

このように見ていきますと、日本の「20歳」は比較的珍しいと言えましょう。世界の半分以上の国は18歳で成人と定めているようです。いずれにせよ、どの国の親も、我が子がこの世界で生き抜いていくための力が養われるようにと、それに至る年月を懸命に子育てに励みます。成人するまで無事に生きてきてくれたこと、これから社会的責任を担う者として出発することを喜び祝うのが「成人式」ではないでしょうか。

さて、このように教会でも「成人祝福礼拝」を執り行なっておりますが、ここで取り次がれることばは、世の中で語られる内容とは視点が異なるということをまず心に留めていただきたいと思います。聖書に基づいて、人間存在を根本から捉え直し、自分はどこから来てどこへ向かっているのかという哲学的な視座に立って、ご自身の「成人」というかけがえのない時をじっくり味わっていただければと願っています。

私がこのために祈り求めて示された聖書箇所は「箴言」でした。

【本論】

本論 1. 箴言とはどういう書か

私が人生で初めて「箴言」という書を読んだのは、確か小学5年生頃のことでした。母の提案で、毎朝一章ずつ一緒に読み進め、初めて「聖書って面白いな」と実感したものです。

「箴言」と訳された「אִשְׁרָיִם」(ミシュレー)という言葉は、「比喩」「たとえ」「謎」「諺」「格言」などとも訳すことができます。ここでは「格言」と捉えておけばよいでしょう。人間がどう生きるべきかの真理を示し、短いことばで読者に助言を与える。本書は複数の人の格言の集成だと思われませんが、私たちはこれを「神のことば」として読む。神が人間に「霊的な知恵」「賜物としての知恵」を与え、「このように生きれば幸せになれるよ」と道を示しているのです。

イスラエルの王、ダビデの子ソロモンの箴言 (1:1)

ここに書かれているように、イスラエル三代目の王ソロモンによる格言も収録されていることは、おそらく間違いないでしょう。彼に神から特別な知恵が与えられ、多くの歌と格言を残したことはI列王 4:32 で知られています。しかし、彼はそれほど知恵と才能に恵まれた人でありながら、晩年は墮落してしまいました。このことから、「知恵」というものはひとたび得ても損なう危険性があるということが、聖書読者に警告として語られているように思います。自分の人生を省みるとき、最後まで「良い働き人」であり続けられるかどうか、それは神の守りなくしては全うできないものだと深く感じます。

箴言はそもそも誰に向けて書かれたものでしょうか。全体として、王の後継者や王宮に仕える者たちのためと言われます。これから国を治める若人に向けて、まだ未経験であるがゆえの失敗から守られるようにという思いが詰まっているでしょう。あるいは、王に仕えるに当たってこのようなことに気をつけていなさいという助言も含まれています。ソロモン自身も父ダビデから教訓を受けて王になりましたが、ダビデが最晩年にソロモンに対して語り聞かせた言葉は、「知恵」のすべてを説明しています。

私は、この世のすべての者がたどる道を行こうとしている。だが、あなたは強く、雄々しくありなさい。あなたの神、主への務めを守ってその道を歩み、モーセの律法に記されているとおりに、主の掟と戒め、法と定めを守りなさい。そうすれば、何をしても、どこに行っても成功するだろう。また、主は私に告げられた次の言葉を実現してくださるであろう。『あなたの子孫が、誠実に私の前を歩もうと、心を尽くし、魂を尽くして、その道を守るなら、イスラエルの王座に着く者が絶えることはない。(I列王 2:2-4)

ダビデがソロモンに教えたことはごく僅かでした。「神への務めを守ること」「神の戒めに従うこと」と要約できる。ここでダビデが細かい点についてはほとんど何も述べていないことに注目したいと思います。ただ、ソロモンが心の中心に据えておくべき「柱」を伝えただけなのです。

本論 2. 「神を畏れる」という基準を持って

ここで、この度成人された方に向けて、同じようにお薦めしたいと思います。その心の真ん中に「神を畏れる」という柱を打ち立てていただきたいのです。

主を畏れることは知識の初め。(1:7a)

「畏れる」とは、神に対して恐怖心を抱いて生きるということではありません。自分に命を与え、この人生の初めから終わりまで、その一頁一頁を知っておられる神の御前を歩いていくということです。そのためには、自分を心から愛し育もうとしておられる神を知ることが何よりも大切です。

人生の新しいページを開こうとしておられる新成人の皆様に、是非取り組んでみていただきたいことがあります。それは、これまで歩んでこられた人生を3年ごとくらいに区切ってみて、各時期に経験した印象的な出来事を書き記してみることです。

- ①どこに住んでいたか
- ②どんな音を覚えているか
- ③どんな匂いが記憶に残っているか
- ④その時期に挑戦した一番大きなことは何か
- ⑤誰を懐かしく思い出すか

二十歳を迎える方なら、7分割くらいにできるでしょう。今までに忘れていたような出来事も思い出してくるに違いありません。あるいは、これまで漠然とした記憶だったものが鮮明になることも多いです。どうしてこのような作業が大切かと言いますと、人生の新たなページを開くに当たって、それまでの日々を振り返り、良いことも悪いことも自分の中で消化することで、それがしっかりとした踏み台となって高くジャンプすることができるからです。そのときに気をつけていただきたいことは、たとえネガティブなことが思い出されたとしても自分や他人を責めるのではなく、「この経験があってこそ今の自分がある」という言葉を付け加えていくことです。私たちはそこからもう一歩先へ進んでいくことができます。それは、「この経験を自分に与えた方がおられる」と、神の存在を見出していくことです。その出来事の目的が何であるかは、現時点では必ずしも分からなくてもよいのです。それは、人生の終わりになってやっと分かるようにな

るものかもしれません。今は無理に理由づけしようとするのではなく、人知を超えた方がすばらしい目的をもって自分の人生を導いてくださっているという「大通り」に立つことです。その道を歩み続ければ、あなたの人生は必ず祝福されるでしょう。右にも左にも逸れることなく、「神を畏れる」というシンプルな基準を心に置いて生きていけばよいのです。

本論 3. 知恵は何によって与えられるか（神との正しい関係によって）

7節の「初め」という言葉は「出発点」という意味を持っています。箴言の著者は、すべての出発点とは「神を畏れる」ことにあると言っているのです。では、神を畏れて生きていくと、どのような良いことがあるのか。それは、人間としての品性が一つひとつ増し加えられていくということです。2～6節に散りばめられた言葉を拾い上げてみましょう。

- ・ 知恵と諭し
- ・ 分別ある言葉
- ・ 見識ある諭し
- ・ 正義と公正と公平
- ・ 熟慮
- ・ 知識と慎み
- ・ 判断力
- ・ 分別
- ・ 知恵ある言葉

箴言という書の特徴として、真理を際立たせるために真逆のものを対置させる手法が多く使われています。つまり、神を心に置かないで生きていくと、どういう危険が待ち受けているかということも同時に語られている。

- ・ 思慮なき者（となる）
- ・ 惑わす言葉（を見分けられない）
- ・ 無知な者（となる）

むしろ、神を畏れる者に与えられていく聖い性質（品性）が一つひとつ自分に宿っていくことを楽しみに生きていただきたいのです。私はこれを「品性の木」と呼んでいます。その木に生っているのは、新約聖書のことばによるならば「御霊の実」というものです。

これに対し、霊の結ぶ実は、愛、喜び、平和、寛容、親切、善意、誠実、柔和、節制であり、これらを否定する律法はありません。（ガラテヤ 5:22-23）

【結論】

これから新たな人生のページを開こうとしておられる新成人の皆様の祝福を心よりお祈りいたします。また、今日取り次がれた真理は、あらゆる世代の人々にも十分適用される事柄です。人生の出発点は神との正しい関係にある。この関係のうちを歩いていくときに、多くの御霊の実を結んでいく。箴言ではそれが「知恵」という言葉で表現されているのです。この道を終わりまで真っ直ぐ歩み抜くことができるよう、お祈りいたします。

【祈り】

人に命を与え、命を取られる神よ。私たちはあなたによって造られ、生きるものとなりました。何も持たずに生まれ、一つひとつの持ち物、賜物が与えられながら、今日まで歩いてまいりました。この人生のすべてのページを支配しておられるあなたを見出し、あなたを畏れ、この生涯を全うしたく願います。成人されたUさんを祝福し、これから進んでいかれるどの道にも、あなたが共にいてください。主の守りと祝福が常に注がれ続けますように。

【祝祷】

仰ぎ願わくは、
人の人生の初めであり、終わりであり給う、父なる神の愛、
その心に神への畏敬をもたらし、忠実なる奉仕者とならせ給う、主イエス・キリストの恵み、
生きるにしても死ぬにしても共にまし、御霊の実で溢れさせ給う、聖霊の親しき交わりが、
あなたがた一同の上に、限りなくあらんことを。